

平成30年11月22日

三浦市議会議長 岩野 匡史 様

議会運営委員会
委員長 神田 眞弓

平成30年度 議会運営委員会行政視察報告書

1. 視察日程

平成30年10月23日（火）・24日（水）

2. 視察地

滋賀県米原市 10月23日

滋賀県彦根市 10月24日

3. 視察参加者

議会運営委員会

委員長 神田 眞弓

副委員長 小林 直樹

委員 石橋むつみ

〃 長島満理子

〃 出口 正雄

〃 藤田 昇

〃 草間 道治

随 行 新倉 真澄

〃 長島ひろみ

4. 視察事項

◇ 滋賀県米原市

議会改革について

- ・議会基本条例の検証と議会改革実施計画の作成について

◇ 滋賀県彦根市

議場開放の取り組みについて

- ・議場コンサートについて
- ・子ども議会について

【10月23日(火)】

(米原市HPより)

■ 滋賀県米原市の概要

- ・ 面積 250.39 平方キロメートル
(うち琵琶湖の面積 27.32 平方キロメートル)
- ・ 人口 39,424人 (平成30年8月)
- ・ 世帯数 14,434世帯 (〃)
- ・ 産業別 第1次産業 (3.5%) 第2次産業 (35.9%)
第3次産業 (60.6%)
- ・ 市制施行 平成17年2月14日 (山東町、伊吹町、米原町が
合併、のち近江町と合併)

■ 位置・地勢

米原市は滋賀県東北部地域の中心に位置し、面積は250.39平方キロメートル(うち琵琶湖の面積:27.32平方キロメートル)で、県土全体の6.23%を占めています。



伊吹山

日本百名山の一つである伊吹山とその南には霊仙山がそびえ、総面積の63%を占める森林にたくわえられた水は、清流姉川や天野川となって地域を流れ、母なる琵琶湖に注ぐという、水と緑に包まれた自然豊かな地域です。

気候は、日本海型気候で、冬季には北西の季節風と積雪がみられます。湖岸部は年間の降水量が比較的少ない内陸性盆地気候であるのに対し、

中山間部は1メートル前後の積雪のある県下有数の豪雪地帯であり、気候的にも変化に富んだ地域です。

伊吹山と醒井の居醒の水を舞台にしたヤマトタケル伝説や、古代豪族息長氏の舞台となるほか、中山道と各宿場、平安時代の高僧・最澄、室町時代の大名佐々木道誉(京極高氏)、戦国時代を代表する秀吉、三成などが活躍するなど歴史の舞台にも度々登場し、数多くの史跡を残しています。



琵琶湖

米原市 議会改革について

(議会基本条例の検証と議会改革実施計画の作成について)

● 視察目的

三浦市議会では、平成26年4月に議会基本条例を施行していますが、平成31年4月の議員改選を前に、条例の検証を行うことを予定しています。

米原市で行った検証の手法や、検証の際に出された意見、検証結果の反映の仕方などを学び、本市議会での検証に資することを目的としています。

● 視察先対応者

進 行：議会事務局 雨森次長

議 員：議会運営委員会 北村委員長

説明員：米原市議会事務局 坂氏

● 視察訪問先

米原市役所

● 視察概要

■ 議会改革について

〈議会改革の取り組みについて〉

議会基本条例の制定・検証……

米原市議会では、議会のあるべき姿として「米原市議会基本条例」を平成25年11月1日に施行しました。

条例の特徴は、①条例に基づく施策の遂行に必要な財政上の措置を明記していること、②議員報酬及び議員定数の改正に当たっては、議論のための附属機関を設置して市民の意見を聴取すること、③基本条例の目標が達成されているかを4年に1回または必要に応じて議会運営委員会で検証することを定めていることが挙げられます。

この③の定めにより、平成28年7月から条例の検証を開始し、平成29年7月に検証結果を市民に公表しています。

検証に当たっては、自己評価、外部評価、今後の議会改革の取り組みについての検討を行っています。



自己評価においては、検証シートを作成し、各委員の作成したシートを統合し、学識経験者の助言を受けながら各項目の評価を実施しました。

外部評価としては、龍谷大学の白石教授を検証アドバイザーとして招致して評価を受けたり、全議員を対象とした研修を開催しました。

今後の議会改革の取り組みとしては、条例の検証結果を具現化するために議会改革実施計画を策定しています。今後は、PDCAサイクルにより議会改革の推進をしていきます。

また、今後の検討課題としては、議会のICT化、議会広報の刷新、議会報告会のあり方、政治倫理条例の見直し、議会BCPなどが挙げられ、優先順位をつけて取り組みが進められています。

- ・ ICT化の取り組み……推進プロジェクトチームを設置し、先進地の視察やICT推進セミナーに参加するなどし、タブレットの導入を決定しました。
- ・ 議会広報の刷新……議会だよりの構成等を工夫し、表紙はフォントを変えてデザインをすっきりとさせ、目次は電車の中張り広告風に、議会報告会の告知をチラシ風のデザインで作成して議会だよりの最終面にフルカラーで掲載するなどしています。
- ・ 議会報告会のあり方……ワークショップ形式を取り入れ、11月にテーブルトークを開催する予定です。

■ 主な質疑応答

Q：議会基本条例の検証は独自のものか。

A：議会事務局が提案をしている。まず、条例を分割して検証シートの案を作成し、議員に提示して議論をもらった。検証はオリジナルだが、手法は市で行っている評価の方法である。

Q：検証をしているときは、頻繁に開催をしていたのか。

A：議員定数見直しの話があったため、こちらを優先して検証がストップしていたときもあった。事務局から、その都度宿題が出されていた。

Q：龍谷大学の白石教授は、どのようにかかわっていたのか。

A：議会基本条例の制定の際にアドバイザーをしていただいていた。議員定数の検討の際に議員から提案があり、外部評価もしていただくことになった。

Q：学識経験者をお願いするに当たっての予算立ては。

A：市で定めている報償費の額で、1回1万円をお願いしているが、その前に



資料を見てもらったり相談にも乗ってもらっている。

Q：議会だよりが非常に素晴らしいと思う。変更をするに当たっての費用はかかったのか。

A：もともと表紙と裏表紙はフルカラー、中は1色だったので、予算は変わらない。1ページ1万2,000円である。

Q：議会だよりの作成には、どこまで議員がかかわっているのか。いつから議員がかかわっているのか。

A：おおむね全て作成している。委員長報告や一般質問は発言者が作成している。議員が作成するのは、旧町時代から当たり前に行ってきた。

Q：議会報告会は、ことしからテーブルトークを行うのはどんな理由からか。

A：発言者が固定されたり、マイクを離さない人がいるなど、不評を買っていた。数年前からワークショップでの開催について意見があったので、やってみることにした。手探りであり、落としどころもわからない状態。やってみて、続けるかもしれないし、やめるかもしれない。

Q：改革の取り組みの中で正副議長候補者の所信表明が導入されているが、状況はどうだったのか。

A：正副議長とも2会派から表明があった。

Q：小学校への出前授業を行っているが、経緯をお聞きしたい。

A：このようなことができるということで投げかけをしているときに、小学校から依頼があった。その地域の議員3人が学校を訪問して、1時間の授業の中で説明・質疑を行った。結構厳しい質問もあったようである。

Q：議場コンサートを開催しているが、どのような形か。

A：合唱やハープの演奏が行われた。会場を貸すような感じ。無料である。客席は傍聴席と議場を使っている。

Q：議員定数についての今後の考え方は。

A：20人から18人にしたときも「減らせばいいのか」の意見があった。人数を減らすと、常任委員会の運営や広い地域の声を取り上げることが難しくなる。



【10月24日(水)】

(彦根市HPより)

■ 滋賀県彦根市の概要

- ・ 面積 196.87 平方キロメートル
(うち琵琶湖の面積 98.59 平方キロメートル)
- ・ 人口 112,923 人 (平成 30 年 8 月)
- ・ 世帯数 47,596 世帯 (〃)
- ・ 産業別 第 1 次産業 (1.9%) 第 2 次産業 (35.2%)
第 3 次産業 (62.9%)
- ・ 市制施行 昭和 12 年 (1937) 2 月 11 日

■ 位置・地勢

彦根市は、市制施行以来、びわ湖東北部の中核都市として発展を続けてまいりました。

びわ湖と鈴鹿山系に囲まれた豊かな自然に恵まれた本市は、江戸時代に彦根藩 35 万石の城下町として本格的な歩みを始め、現在に至るまで歴史的、文化的な風情を色濃くとどめるとともに、中世から近世にかけての貴重な歴史遺産が今なお、数多く存在しています。



彦根城

議場開放の取り組みについて

(議場コンサートについて、子ども議会について)

● 視察目的

彦根市では、議場開放促進委員会を設置して議場開放について、さまざまな取り組みをしています。その取り組みをするに至った経緯や具体的な取り組み内容を学び、三浦市議会でも「開かれた議会」を目指して、取り入れられるものがないか検討していきたいと考えています。

● 視察先対応者

進行：安澤 勝 議会改革特別委員長
議員：馬場和子 副議長（歓迎挨拶）
山内善男 議場開放促進委員長
説明員：彦根市議会事務局 中村氏

● 視察訪問先

彦根市役所（耐震工事中のため、彦根駅西口仮庁舎）

● 事業概要

■ 議会改革について

〈視察対応プロジェクトチーム〉

平成28年度までは、議会事務局が他の自治体からの行政視察の受け入れ、対応を行っていましたが、自分たちが視察に行くと議員が対応をしてくれたことから視察受け入れプロジェクトチームを設置し、みずから受け入れをするようになりました。

今回の視察でも、安澤議会改革特別委員長、山内議場開放促進委員長のお二人が、プロジェクターを使っての説明や、本市委員からの質問に対する説明をしてくださいました。

〈議員定数〉

前回、定数の改正を行ったころは全国的に定数の削減が進められている時期でしたが、議会改革の研修を開催し、三重県議会から講師を招いて話を聞いたところ、「議員を減らすことは住民とのパイプを細くすることに



なる」との話があり、それ以降は定数削減の意見は一切出されなくなりました。

〈委員会〉

常任委員会では、議案審査の後に一般質問を行っていますが、これは非常に珍しい事例とのことです。

〈広報広聴の取り組み〉

平成26年4月に議会基本条例を制定し、さまざまな改革を進める中で、広報広聴機能を充実するために3委員会を設置して取り組みを進めてきました。

議会報告会の周知方法の検討や開催形態の変更（ワークショップの開催）、市への政策提言（大河ドラマを活用して集客するためのプロジェクトチーム設置）、議場コンサートの開催、小学生による子ども議会の開催、中高生の議会傍聴、議会だよりの改善、大学連携等を行っています。

■ 議場開放の取り組みについて

〈子ども議会〉

開催に当たっては、議会と教育委員会、議会事務局が連携し、事前の準備を行っています。質問の作成は、議員と議会事務局職員が手助けをしています。以前は各学校に任せていましたが、学校から苦情があり、議会と教育委員会で責任を持って行うことにしました。

リハーサルの際は、あわせて議会ツアーとして正副議長室や議員控室、議会事務局を子供たちに案内しています。

当日は、子供たちは議員バッジをつけ、3グループに分かれて子ども議会を行います。



〈議場コンサート〉

市民に議場に来てもらい、議会を身近に感じてもらうために開催しています。

現在は、6月・12月定例会の開会日に、13時から13時30分の30分間開催し、入場料は無料としています。

議場開放促進委員と事務局職員が協力して対応し、残りの議員は任意参加としています。

● 主な質疑応答

Q：議会報告会は、どこの議会でも参加者を集めることが課題となっている。

彦根市ではワークショップ形式を取り入れたりしているが、どのような工夫をしているのか。

A：当初は、報告する内容を全会場統一したものとして文書化し、私見を言わないようにしていたが、「つまらない」との声があった。現在は基本的な報告内容は決めているが、私見を言わないという縛りはなくし、自分の考えを述べるようになった。

Q：報告会の周知に名刺サイズのチラシを作成しているが、どのように活用したのか。

A：商業施設の前や駅前で議員が配布した。チラシを見て参加したという人もいた。配布用のティッシュを購入してチラシを挟んで配った（議員1人100個）。

Q：議会報告会が雪で中止になった際は、議員が商店街を回って意見を聴いてきたというが、どのようにしたのか。

A：11商店街を各議員が担当を分けて回っている。商店街の理事長のところを伺い、商店街の活性化についての課題を聴取してまとめている。

Q：ワールドカフェ形式で開催したときは、飲み物等の費用はどのくらいかかったのか。

A：飲み物とお菓子で、1回1～2万円かかっている。交通費は出していない。

Q：議場コンサートは、観客の募集をしているのか。

A：ホームページでも周知しているが、どちらかというとな出演者が声掛けをして観客を集めている。

Q：観客の席数はどのくらいあるのか。

A：議席と傍聴席を合わせて、最大70人入る。

Q：コンサートの出演者に謝礼等を出しているのか。

A：中にはセミプロの出演者もいるが、謝礼は出していない。そのかわりではないが、お昼ごはんのお弁当を出している。

Q：子ども議会では、子供たちが質問をつくる際のサポートはどのようにしているのか。

A：議員、事務局、教育委員会がそれぞれサポートするが、直接市の担当のところに行く際は議会事務局か教育委員会の職員がついている。

Q：子供たちや保護者も忙しいと思



うが、スケジュールの調整はどのようにしているのか。

A：教育委員会がメインで調整を行っている。子ども議会当日に発表会等の予定が入ってしまった子は、開催するグループ分けの中で時間調整をしている。

Q：子ども議会に対する意見はあるか。

A：市側からは子供を議員として扱うことについて、議員側からは子供に対してのほうがいい答弁をしていることについて意見が出された。

行政視察の成果について

滋賀県米原市・彦根市行政視察を終えて

議会運営委員長 神田 眞弓

1. 米原市

電車から降りると、日本百名山の一つである伊吹山がそびえ、総面積の 63%が森林で、清流が地域を流れ琵琶湖に注ぐという、水と緑に包まれた人口 39,424 人の自然豊かな地域です。

このたびの研修では、議会基本条例の検証と議会改革実施計画について学ばせていただきました。

議会改革実施計画を長期計画として作成し、前期計画と後期計画と分け、1年経過後に中間進捗確認と修正をおこない、その中で長期計画の見直しをおこなって、長期計画評価を参考に議会基本条例の検証をおこなうという、長期計画推進に向けて今後の検討事項や課題を出し、PDCA サイクル（計画→実行→評価→改善）による推進体制が整っていました。

そして、学識経験者として大学の教授が、検証アドバイザーとして議員研修をはじめ、検証シートの作成にも協力いただいていること、会派に関係なく全議員で進めていることは、とても参考になりました。本市としても、今後の検証にむけておおいに勉強になりました。

結びに、お忙しい中、米原市議会議会運営委員会 北村委員長、田中副委員長、議会事務局の方々に感謝申し上げます。



2. 彦根市

豊かな自然に恵まれた彦根市は、駅より5分ほど車で走ると、江戸時代に彦根藩 35 万石の城下町として栄え、現在に至るまで歴史的・文化的な風情があり、貴重な歴史的遺産が今も多く存在していて、ゆるキャラでお馴染みのひこにゃんが彦根城で迎えてくれます。人口は 112,923 人の中核都市であります。

議場開放促進委員会においてプロジェクトチームを作り、議場コンサートは事務局の協力を得まして、公民館への推薦依頼や、出演者との打ち合わせを行っています。出演者のジャンルもさまざま、合唱や楽器、踊りなど、市民の方たちの発表の場として、とても喜ばれ、役立っているようでした。

子ども議会は、教育委員会の協力を得て、6月に各小学校に依頼して出席者や質問・答弁の打ち合わせをし、本番一週間前にはリハーサルもおこない本番に備えるそうです。まさに本当の議会のようにあります。

中学生・高校生・大学生の議会傍聴会を開催したり、大学の講義に議員が参

加していました。彦根市は大学が3つあり、議会と学生双方にとって実りのある懇談会になっているそうです。若者の投票率向上へ、学生の声を聞いて、少しでも選挙に行く方策をとっているそうです。冒頭、山内議員より投票率が県内最低の53.14%と聞き、驚きました。本市では、やっと30%です。当市も子ども議会の開催や、若者に政治への関心を持ってもらえるように、全議員一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

今回の研修でお世話になりました馬場副議長、山内議員、安澤議員、事務局の皆様、貴重なお話ありがとうございました。

米原市と彦根市への行政視察 報告

副委員長 小林 直樹

1. 米原市

(1) 議会基本条例の施行

平成25年11月に議会基本条例を施行しました。その内容は、議会報告会の実施、予算委員会の常任委員会化、一問一答の実施、議長候補の所信表明などです。

(2) 議会基本条例の検証

「市民に開かれた議会」「議員の公平性、透明性」「議会の体制強化」「評価及び検証」の4テーマを決め、12項目について検証シートにより評価、課題、今後の方針を整理・集約しています。また、大学教授にアドバイスと評価を依頼しています。

(3) 議会改革実施計画の作成

条例の検証と併せて、議会改革実施計画を策定しています。4年間の長期計画と2年間の前期実施計画と後期実施計画を定めています。

(4) 今後、参考にすべき事項

条例の施行では、予算委員会の常任委員会化及び議長候補の所信表明が、三浦市では行われていないので検討することが必要です。検証では、12項目について検証し評価や課題が整理されており進捗状況が明確になっていました。三浦市でも参考にしたいと考えます。実施計画の作成では、市の総合計画と同様の手法で計画を作成し、目標を鮮明にし改革を進めていると感じました。



2. 彦根市

(1) 議会基本条例の施行

平成26年4月1日に議会基本条例を施行しました。その内容は、議会報告会の実施、政務活動費の使途の明確化、議員間討議の実施、広報・広聴機能の充

実などです。

また、視察の対応は、議員が行うようになっていきます。

(2) 広報・広聴の3組織

広報・広聴機能の充実のために、次の3組織を設置しています。

①議場開放促進委員会は、議場コンサート、中学生・高校生・大学生の傍聴

②広報委員会は、市議会だより編集、HPの更新、FBの更新

③広聴委員会は、議会報告会・意見交換会の実施

(3) 今後、参考にすべき事項

議場開放促進委員会では、中学生・高校生・大学生の傍聴を積極的に受け入れており感激しました。広報委員会では、議会だよりの編集について参考になりました。広聴委員会では、議会報告会を一般参加、ワークショップ、カフェ方式で行っていました。また、大学生がファシリテーターを努めるなど工夫を凝らし実施していました。

議会運営委員会行政視察を終えて

石橋 むつみ

三浦市議会の今年度の議会報告会（10/13,14）開催後、間もなくの視察であったので、「議会報告会の持ち方、テーマや報告の対象・参加者への広報などについて、どこの議会でも、知恵を絞り工夫を重ねているのだな…」が、第一印象でした。



滋賀県米原市：旧坂田郡の4つの町が、2005年2月と10月に合併して米原市が誕生したとのこと。市となって十数年、新しいまちの歴史をつくりながら、外部アドバイザーの協力と議会事務局のサポートを受け、議員全員で議会の基本的なあり方を研究し、改革を考え、精力的に議会活動を積重ねている様子が感じられました。そのことは、議運正副委員長と議会事務局の担当者が分担して説明して下さった「米原市議会・議会基本条例の検証と評価について」、「議会改革実施計画・議会運営4年間のロードマップ」「米原市議会基本条例の検証結果について（報告）」等の緻密で濃い内容に表れています。

滋賀県彦根市：「議場開放の取り組みについて」が視察事項でしたが、まず、議会の「視察対応プロジェクトチーム」の存在に驚きました。考えてみれば、「議会改革の取り組み」であれば、議員が視察者に説明をするのは当然のこと。2年前に、前期の正副議長経験者が幹事となって設置し、現在は議会改革特別

委員会委員がチームのメンバーになっているとのことでした。

10回を重ねるといふ子ども議会の取組にも、感心させられました。例年、4月に開催が決定してから、11月の本番まで、学校教育課、企画課、議会事務局などの連携で、子ども議員の事前研修、質問作成、答弁協議、リハーサルなどなど様々な準備を重ねて開催しているとの説明を聞きました。「ひこね市議会だより140号」にも報告されています。

議会だけでなく、学校や市役所の各部署の協力があってこそ可能なことでしょう。経験をした子どもたちは、議会を身近に感じ、くらしと政治のかかわりについて考え、まちづくりを担う大人になっていくのかも知れないと考えると、彦根市の10年後、20年後が楽しみです。

視察から学び、三浦市議会の「市民に開かれた議会活動」に、何を生かしていくのか、今後の議会運営委員会でも、議員間でも話し合いを深めていきたいと思えます。

視察に応じてくださった、米原市、彦根市の関係者の皆様に深謝致します。

議会運営委員会行政視察 報告

長島 満理子

滋賀県米原市と彦根市へ議会運営について視察に行きました。

米原市では、議会改革について、議会基本条例の検証と議会改革実施計画の作成について伺いました。平成22年に議会運営委員会で議会基本条例の策定をし、平成25年第2回定例会で「米原市議会基本条例」を制定、11月に施行しました。

議会改革実施計画を立て、大項目で、「市民に開かれた議会」「議員の公平性・透明性」「議会の体制強化」「評価及び検証」をあげ、小項目、取組目標と分けられ、今後検証していく流れになっていました。

彦根市では、議会改革の取り組みとして、広報、広聴機能を充実するために3委員会に分かれ、子ども議会や市議会だよりの編集、議会報告会など各委員会で行われるようになっていきます。

中でも、議会報告会は、参加者についてなど課題は同じようにありますが、参加しやすい工夫がなされていました。市民団体対象や地元高校生、または滋賀大学経済学部と彦根市議会とで連携協定を結び、ワークショップ形式でそれぞれの課題について意見交換をします。報告会の形式も「カタリバ」と言ってお茶を飲みながらのワールドカフェ方式の議会報告会を実施していました。若い



世代にこれからの彦根市について議会と共に意見交換ができることは素晴らしいことだと感じました。

また、子ども議会も毎年開催されています。約半年の期間中、本会議同様に子ども議員と議会事務局をはじめとする行政との打ち合わせを重ね、本番へ向かいます。学校と教育委員会の理解もあり継続事業として続いていることは素晴らしいと感じました。

また、身近に議会を感じてもらおうと「議場コンサート」も開催しています。

市民と議会がこれからの我がまちについて意見交換ができるように、参加しやすい形式を模索し取り組んでいる彦根市のお話を伺い、三浦市でも出来ることはまだまだあると実感しました。

三浦市らしい取り組みを今後も考えていきたいと思えます。

議会運営委員会 行政視察報告

出口 正雄

11月6日、快晴一路、新幹線で新横浜→米原駅到着。駅の周辺は何もない。商店街も食堂もない。ホテル一軒だけ。驚き!?

米原市の議会改革について。

米原市議会基本条例……25年制定。

米原市議会議員政治論理条例……政治倫理基準の審査会の委員は三浦市の基本条例にはないのではないかと思う。委員8人構成、内訳は、議員3人、学識経験者2人、選挙権を有する者3人となっています。審査会を設置するのも賛成ですが……。

次に、議会報告会については、本市と同じように団体や学識経験者との意見交換会を実施している。

子ども議会の開催も、定期的ではないが行っている。参加人数は20人。本市も過去には子ども議会があった。

彦根市の議会改革について。

彦根市では、議会改革の取り組みとして、市民アンケートを実施している。住民基本台帳から無作為抽出の3,000世帯から1,061人、回答率35.4%という結果になった。

そして、22回議会報告会で「カタリバ」を開催した。「カタリバ」とは、コーヒーやお茶を飲みながらリラックスした空間の中で、市政に対する意見や、将来、未来を語る機会の場であります。反面、愚痴や日常生活の不安など、お互いに意見交換する大事なプレイスになればいいと思いました。三浦市にも、気



軽に相談したり、話し合える交流広場が早く実現すればいいなと考えます。

また、国宝・彦根城の周辺には、城下町を再現した飲食店街や土産物屋が並び、見事な戦略と経済効果です。

今回の行程は、十分、手ごたえのあった行政視察でした。

平成30年度 議会運営委員会 行政視察報告書

藤田 昇

1、平成30年10月23日(火) 滋賀県米原市

<視察内容>

- ① 議会基本条例の検証と議会改革について
- ② 実施計画の作成について

議会基本条例の検証と議会改革についてですが、検証を平成28年7月から9回の議会運営委員会での協議と、2回の議員研修会において、検証項目の構成作成と検証シートの作成を行っており、また、外部より龍谷大学政策学部教授の白石氏を検証アドバイザーとして、議員研修をはじめ検証シートの作成に協力、また、外部評価としての意見等を頂くなど、4年に1回または必要に応じて条例の目的が達成されているかを検証しています。

特に、今回の検証結果を受けて、これまでの議会改革における成果や課題を明確にすることとともに、今後の方策を具現化するために、取り組み事項をロードマップ化し、目標に向けた取り組みの具体的な計画を作成し実行することで、議会改革をさらに推進していくことがわかります。

特に、4年間の長期計画（ロードマップ）と2年ごとの計画、1年ごとの進捗確認を行うことで、長期的な課題解決の見通しと、現状課題への迅速な対応を図られていることなど、大変に勉強になりました。

また、特に議会だよりが、表紙をめくると週刊誌のようなダイジェストが掲載されていることなど、市民の方に議会の内容が非常にわかりやすく伝わるように構成されていることや、議員自ら作成をされていること、議会だより編集委員の方々の取り組みが素晴らしく、大変参考になりました。

また、議会ICT化推進プロジェクトチームを設置され、議会のICT化に向けて、先進地の視察や研修会の開催などを実施し、来年度に向けてタブレット導入を図られることが決まっていることなど、議会改革の推進が図られていることが良く理解できました。三浦市においても、このような取り組みを参考にして、議会改革の推進を図ることが重要だと実感いたしました。



2、平成30年10月24日(水) 滋賀県彦根市

<視察内容>

① 議場開放の取り組みについて

- ・議場コンサートについて
- ・子ども議会について

今回、彦根市を視察させて頂いて、最初に驚いたのが、議員で「視察対応プロジェクトチーム」を平成28年10月に設置されていて、議会改革特別委員会委員の議員さんが説明をして下さり、議会改革への取り組みの一環として取り組んでいられることが素晴らしいと感じました。

議会改革の取り組みも、市民に開かれた議会として、「広報・広聴機能を充実させる」ために、3つの委員会

- ①議場開放促進委員会（・議場コンサート・子ども議会・中学生傍聴について）
- ②広報委員会（・市議会だより編集・Facebook更新・HP更新について）
- ③広聴委員会（・議会報告会、意見交換会について）

各委員会を8人で構成で設置するとともに、正副議長と3委員会の正副委員長で「広報広聴調整会議」を設置して取り組んでいられることが素晴らしく、大変に参考になりました。

平成30年度 議会運営委員会行政視察報告

草間 道治

今回、滋賀県米原市議会の「議会基本条例の検証と議会改革実行計画の作成について」と彦根市議会の「議場開放の取り組みについて」行政視察に行きました。

米原市議会の議会改革の取組では、議員定数の見直しについて大学教授や市民の代表による審議会を設置し議論をしていることや、予算審査については特別委員会ではなく予算常任委員会の設置など、新たな取組をしていました。

議会報告会については、参加者の減少や実施方法について苦慮している状況については、どこの議会も抱える問題点は変わらないと感じました。本市議会でも、市民全体を対象に行っていた議会報告会について、参加者が特定の方しか参加しないことや参加者を集めるのに苦労していることから、2年前から特定の団体を対象とした議会報告会を実施しています。



議会基本条例の検証については、米原市議会は、4年に1回の検証をすること、議会運営委員会において検証を行い、学識経験者の助言を受けながら取組項目ごとの評価を実施していること、実施方法については、行政の総合計画や都市マス等の見直し方法を参考にしていることなどは、今後の本市議会基本条例の見直し実施について参考にしたいと感じました。

議会改革の推進に向けての取組では、議会広報の刷新による米原市議会の「議会だより」については、素晴らしい議会だよりであると感じました。本市議会でも議会だよりの刷新に取組む必要性を感じた次第であります。

彦根市議会の「議場開放の取り組みについて」は、議長の発案で平成25年4月に議会開放促進委員会が設置され、子ども議会の開催が決定され、議会が主導で教育委員会に協力していただき、年1回開催しておりました。開催までには、6か月前から準備を行い、各小学校への依頼から事前研修、質問原稿チェックや、本番一週間前にはリハーサルを行うなど準備に時間をかけていると感じました。

その他、議場コンサート、中学生・高校生傍聴等の取組を行っておりました。

今回の視察で両市議会の議会改革の取組で感じたことは、どこの市議会も同じ課題と問題を抱え、問題解決にさまざまな取組を行い、「市民に開かれた市議会」を目指し取組んでいる段階であると感じました。

今回の両市議会の取組を参考に本市の議会改革、「市民に開かれた市議会」を目指し頑張る決意をいたしました。
